



# 八尾市教育センター 所報

令和7年12月

416号

相談支援係  
072-941-3365

ICT教育推進係  
072-943-5785

研究研修・幼児教育係  
072-943-5784

教育センター  
Web page は  
こちらから



『そだちのねっこ』  
～乳幼児期の遊びより～

「先生、一緒やな、みててや!」「みてみて、ぼくの電車、わたしの爪!」  
～『やってみたい!』が学びの芽～

3歳児の様子

11月20日、3歳児の子どもたちが遊ぶ様子を見学してきました。子どもたちは自分のしたい遊びを見つけ、保育室や廊下など、好きな場所で遊んでいました。



「氷になあれ～」とステッキを振りながら、友だちや参観者の反応を楽しんでいる子どもがいました。保育室に戻ると、「先生もしよや!」と誘うと、「オッケー!」と言い、子どもと同じ衣装を着て、なりきる保育者と遊びを楽しむ姿が見られました。

廊下のジャンプ台では、傍にいる保育者の合図や視線を待ち、「いくで!」と自分なりの跳び方を楽しんでいました。また、着地した時の声かけを待っている子どもの姿が印象的でした。「先生、次はなんて言ってくれる?」「どうだった?」と保育者に視線を送り、求めている言葉をもらえると喜びを噛みしめる表情がとてもかわいかったです。

そうした嬉しい経験から、友だちの跳び方にも関心をもち「次はあんな風にしよ!」とか「もう一回するから見ててな」など、繰り返し楽しむ姿も見られました。

乳児から幼児クラスになり半年が過ぎ、一緒に遊びを楽しんでくれる担任や学年の保育者が大好きになり、『安心基地』となっていることがわかりました。時々、外の世界へ(担任や学年の保育者から離れて)遊びに行くけど、自分が求めている時、自分が困っている時に傍にいてくれる、助けてくれる大人がいるという安心感をもっているからこそ、子どもたちが生き生きと遊んでいると思いました。



また、別の保育室ではA児、B児、C児は、電車の玩具と線路を組み合わせて、遊んでいました。その様子を見た保育者が、「自分たちの電車もつくってみる?」と声をかけました。すると、「えっ?自分の電車?」と嬉しそうな表情に変わった瞬間を見ました。用意してもらった段ボールにパスでグルグルと色を塗ったり、タイヤを描いたりしていました。「これは何?」と聞くと、A児:「これは近鉄電車やで!」B児:「僕もやで!」C児:「僕ははやぶさやで!」と自分の電車をつく

れることにワクワクしていて、すぐに教えてくれました。さらに A 児は「ここは連結するところやねん」と電車から出た線を指さして教えてくれました。3人とも、やらされているのではなく、自分のしたい遊びができていく姿だと思いました。



廊下に設置されたステージでは、爪や衣装を身につけ、音楽に合わせて「にゃ〜!」と声を出したり、怖い顔をしたりして猫娘になりきって遊んでいました。曲が終わると、化粧台に戻り、爪の手入れをしたり、化粧をしたりしていました。自分でやろうとする中で、ちょっと難しい時は、「先生、手伝って!」と伝えていました。「どこ?ここに貼りたいの?」と子どもの気持ちに寄り添い、すべてをやってあげるのではなく、少し手伝い、子どもが自分でできるような援助をされていました。近くにいた参観者に、「みて!できたで!」と、自分の爪に紙で作った猫の爪を付けて嬉しそうに見せていました。

形や出来栄が整っていなくても、子どもたちがイメージをもって遊ぶ姿を受け止め、子どもの声をたくさんききとりながら、「何を楽しんでいるのか」「何を求めているのか」を探るためにも、保育者が一緒に遊ぶことも効果的であると思います。

3歳児は、自分でしてみたい思いはあるものの、子どもたちだけではできない部分も多くあります。安全に考慮し、発達段階に応じた素材や用具を事前に準備をしたり、全部をしてしまうのではなく、難しそうにしているところだけを手伝ったりするなどして、『自分でできた!』につながる保育者の援助がとても大事になる時期です。この経験が、新しいことへの『やってみよう!』意欲となります。さらに、一人ひとりの満足度が満たされて生き生き遊ぶ姿には、『おもしろそう!』な雰囲気や、周りの子どもの興味・関心を誘発し、『やってみよう!』が広がっていく効果があります。これこそが、集団の力だと思っています。

幼児教育は、教科書や指導書がなく、答えが一つではない難しさもありますが、面白さや援助が多様にあります。そこには、どんな子どもに育てたいかを保育者間で共有する必要があります。子どもに『できる・できない』を求めるのではなく、まずは自らやってみようとする気持ちを育てることが、小学校以降の学びにつながるそだちのねっこであると考えています。

#### 通級指導教室公開授業研修会④

令和7年10月31日(金)午前9時30分~午前11時30分に通級指導教室公開授業研修会④を行いました。前半は事例検討会を行いました。後半は発達支援ルーム まなび 今村佐智子 理事より公開授業校の事例について指導助言をいただきました。

<受講者感想>

- 事例検討会の中で、体育が苦手な児童に苦手意識を持ってほしくないという相談をした。他のメンバーから、児童の困り感が出てしまう前に、コンパスの使い方やリコーダー、縄跳びなど事前に通級でやっているという実践を聞くことができた。また、やったことを先に学級担任に共有しておくことで、褒める場面を増やせるというやり方も聞くことができた。
- 様々な子どもたちの特性について考え、個々の困り感がどこから来るのかをグループワークでアセスメントしていくことで、いろいろな視点を持つことができた。さらに、各グループの討議内容について今村先生からの指導助言をしていただくことで、より適切なアセスメントへと近づけることができたと思う。
- 今村先生の話の中で、吹き出しを使った状況整理が心に残った。相手が言ったことの裏側にはどんな気持ちが隠れているのか、それを考えることで自分の状況を整理しつつSSTの学習につなげることができると感じました。

## 幼児教育研修<ミドルリーダーステージ研修②>

令和7年11月7日（金）午後3時～午後5時に幼児教育研修<ミドルリーダーステージ研修②>を行いました。講師は大阪常磐会大学短期大学部 恒川 直樹 教授で、研修テーマは「同僚性を高めるコミュニケーション～聞き上手、話し上手になるために～」です。

<受講者感想>

- ・ノンコンタクトタイムは、5分・10分でも子どもの姿を少しずつ毎日振り返られるように、時間の確保が必要だと感じた。隙間時間の活用も考えていきたい。
- ・『クイズ・カンファレンス』は、子どもたちがどう考え、どう感じているのかをたくさん想像することによって答える楽しさ、考える楽しさを感じられた。
- ・相手が相談してくれたことに目を向けて、褒める場をつくることで、さらに話しやすくなると思った。

## 通級指導教室公開授業研修会⑤

令和7年11月14日（金）午前9時30分～午前11時30分に通級指導教室公開授業研修会⑤を行いました。前半は公開授業（動画視聴）を行いました。後半は発達支援ルーム まなび 今村 佐智子 理事より公開授業（動画視聴）について指導助言をいただきました。

<受講者感想>

- ・他校の公開授業（動画視聴）をする中で、授業を1つ1つ丁寧に進めるとともに、生徒を認めたり褒めたりする場面がたくさんあった。また、事前に他の関係教師から対象生徒の情報を集め、周りから見て自分はどう見えているのか考えさせる場面があった。その時、自分ができていると思ってもできていないことに気づかせるとともに、「周りから見える自分がよく見えることをめざそうね」と指導し、今後に向けての目標も提示することができていました。
- ・今村先生の助言で、心に残ったことがある。生徒が安心して話せる先生の姿勢がとても大切であるということが改めて納得できた。また、具体的に話し声の大きさや速さ、思ったことを話し過ぎないなど、具体的な指導の必要性や自分の思いを表現することを伝えた上で、どう相手と折り合いをつけて話をしていくかという方法など、成長に応じて身に付けさせるコミュニケーションの順を学ぶことができた。
- ・今村先生の「カウンセラーと通級の先生の違い」で、本人の話を聞くのは同じだが、通級の先生はそこからできないところを伝え、手立てをともに考えることが必要であるという言葉にはっとさせられた。自分自身の日常の指導を振り返る手立てであると思った。

## 幼児教育研修<保育のための基本研修②>

令和7年11月17日（月）午後3時～午後5時に八尾市立安中ひかりこども園2階遊戯室で幼児教育研修<保育のための基本研修②>を行いました。研修講師は大阪芸術大学 小森 創介 准教授で、研修テーマは「表現することを楽しむためには～つもり遊びやなりきり遊びから～」です。

<受講者感想>

- ・実際に演じてみるワークがとても勉強になった。一つの場面について、「どうする？」と問いかけながら子どもたちと一緒に考えていきたい。
- ・自分の言ったこと、発想、表現が受け入れてもらえるという安心感は非常に重要だと感じた。そのためには”Yes and!”の精神がクラス全体に当たり前にある雰囲気づくりを心掛けていきたい。

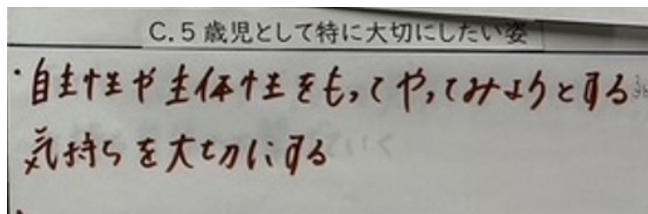
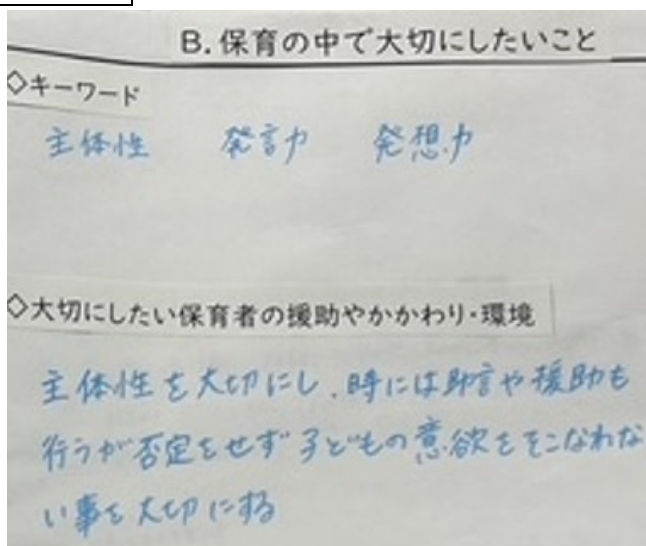
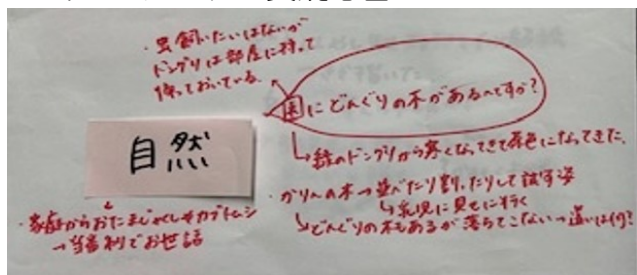
- ・セリフをどうするかなどを考えすぎず、台本に頼らない大きな枠組みの中で表現することの楽しさを感じていけるようにしていきたい。

## 第3回 幼・保・こ・小合同研修会

令和7年11月21日（金）午後2時30分～午後5時に第3回 幼・保・こ・小合同研修会を行いました。前半（午後2時30分～午後3時30分）は就学前施設職員のみで「5歳児の育ちと保育実践（遊び）の中で大切にしていること（したいこと）」をテーマにグループワークを行いました。後半（午後3時30分～午後5時）は小学校教員も加わり「架け橋期の教育課程（仮）を作成する」をテーマにグループワークを行いました。

↓A～C 前半のグループワークより抜粋 ↓

### A. エピソード・質疑応答



### <受講者感想>

- ・他園の子どものエピソードの中から、保育の中で大切にしたいことや保育者のかかわりなどを話し合って様々な意見を聞くことができ大変参考になった。
- ・園で感じたワクワク感を持続させつつ、小学校ではワクワク感+学習につなげていくことが大切である、という話になった。小学1年生の国語の授業で、「園の先生あてに、小学校で頑張っている自分の様子を伝える手紙を書く」という活動をしている。意欲と知識等の両方が成長できるようにしたい。
- ・カリキュラムの作成は、言葉の選び方などにも配慮が必要で難しい面があると感じた。しかし、幼保こ小で子どもたちに伝えたいことは同じであるということが分かりあえてよかった。

## 授業と講演<八尾市教育センター研究協力員 国語部会>

令和7年11月25日（火）午後1時40分～八尾市立高安小中学校で授業と講演<八尾市教育センター研究協力員 国語部会>を行いました。公開授業は高安小中学校 瀬田 貴生 教諭で、4年1組「友情のかべ新聞」を行いました。講演の講師は愛知教育大学 正木 友則 准教授で、テーマは「国語科における授業へのアプローチ～低・中・高に合わせた～」です。正木先生は本誌11月号で教育科学「国語教育」の『「いい学習課題」ができるまで』と題した提言を紹介させていただきました。

### <受講者感想>

- ・発問に対する答え方の多さ、幅の広さを感じていたが、これは視点による違いから生じるもので、視点がバラバラだと授業がしづらいつと思った。しかし、発問のし方を工夫すれば視点ごとに話し合いができることや、気づかせたい（指導したい）ことにつなげていくための方法も教えていただいた。早速、実践していきたい。
- ・授業は子どもたちとの掛け合いで成り立っており、後になってから「あんな方法もあったん

じゃないか」と気づくことも多い。今日の研修で、こんな風に子どもたちに問えばいいんだという気づきがあった。

・自分だけでは気づけないことも、他の先生方と共に考えることで新たに気づくことができた。自分のやり方だけでは気がつかない点を、正木先生の講演やワークを通じて気づくことができた。授業実践にいかしていきたい。

## 教育センター「情報公開コーナー」

教育センターB棟（東側）の2階に「情報公開コーナー」があります。各種教育関係図書・雑誌等を配架しています。もちろん「教科書センター」として八尾市で採択している教科書や他社の教科書もあります。研修等で来所された時に直接ご覧いただければ幸いです。教科書・その他書籍・雑誌等も2週間の貸し出しを行っております。今回は11月から12月に配架した雑誌の誌名と目次の一部と書籍の内容を紹介いたします。

「指導と評価」（日本教育評価研究会）12月号

- ・特集1 令和7年度全国学力調査の分析
- ・特集2 感性と生き方の教育

「道徳教育」（明治図書）12月号

- ・特集 子どもが発言したくなる！ 道徳授業の言葉かけ100

「特別支援教育研究」（全日本特別支援教育研究連盟編集・東洋館出版社）12月号

- ・特集 協働的な学びで何を育てるか ～かわり、認め合い、高め合う実践から～

「初等教育資料」（文部科学省編集・東洋館出版社）12月号

- ・特集Ⅰ 教師を取り巻く環境整備
- ・特集Ⅱ [理科] 直接体験を基本にデジタル学習基盤を活用した理科の指導の充実

「中等教育資料」（文部科学省編集・学事出版）12月号

- ・特集 [高等学校] 各教科等を交えて語り合う③～学習過程の重視～

教育科学「国語教育」（明治図書）12月号

- ・特集 使える 授業技術 ベーシック&アドバンス100

教育科学「社会科教育」（明治図書）12月号

- ・特集 社会科授業がおもしろい先生が 実はやっている授業アイデア

「新しい算数研究」（新算数教育研究会編集・東洋館出版社）12月号

- ・特集 学習指導要領実施状況調査、全国学力・学習状況調査から見える授業づくりの方向性